

# 農業技術 プリズム

県内で栽培面積が拡大しているイチゴ「ゆめのか」は、高単価で取引される年内収量を増やすため、冷蔵施設に苗を入れて花芽分化を早める暗黒低温処理を行っています。しかし、今後の栽培面積拡大に伴い冷蔵施設の不足が予想されるため、冷蔵施設を用いずに頂花房の花芽分化を早進する技術が求められています。

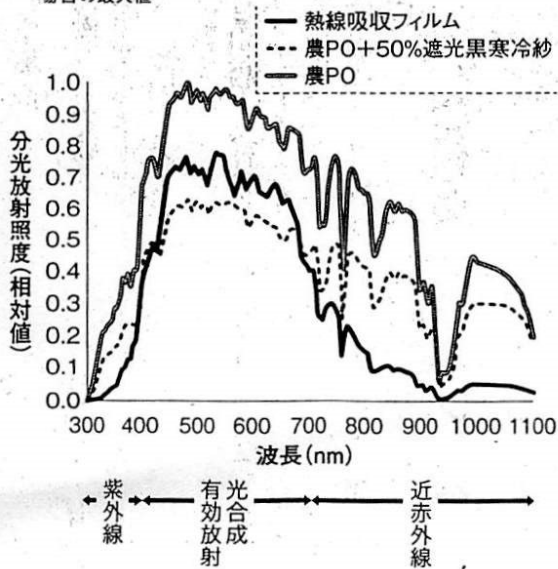
## イチゴ「ゆめのか」

### 熱線吸収フィルムで収量安定・作型分化

そこで、ヤンマー、パナックが開発した熱エネルギーとなる近赤外線（NIR）を吸収し、光合成有効放射（PAR）

熱線吸収フィルムの透過スペクトル

※値は太陽光下で農POフィルムを透過した光の最大値を1とした場合の最大値



R)を透過する特性を持つ熱線吸収フィルムを用いて、花芽分化早進に対する効果を検討しました。

8月25日から暗黒低温処理したものの③農POフィルムで育苗したもの——の3区を設け、処理後に高施設に植え付けました。

その結果、定植日と年内収量は、①は9月15日で144キ/ヘ②は9月10日で149キ/ヘ③は9月23日で67キ/ヘ——となりました。

熱線吸収フィルムは、安定した年内収量が確保できます。また、定植日が暗黒低温処理と普通促成作型の中間に当たることから、作型分化による労力分散や出荷の平準化が期待されます。

（県農林技術開発センター 野菜研究室 研究員 松本尚之）